

1 ▶ SPAM ってなんだろう？

著 山内素直 / 齋藤 学

■ SPAM とは？

SPAM とは，“Standard of Primary Assessment in Muribushi” の略で、初期研修医が救急外来（ER）で自信をもって救急初期対応に臨めるよう、沖縄県の浦添総合病院（臨床研修病院群プロジェクト 群星沖縄 基幹病院）で生まれた救急初療標準化コースです。

研修医にとって、ER での救急車や重症患者への対応は、自らの判断や対応が患者さんの生命に直結する場合も少なくなく、極度のストレスに晒される試練の場です。「なんだか怖くて救急車の患者さんを診るのを避けてしまう」、「救急車が来て何をしたらいいかわからない」など、研修医なら誰もが ER での診療に不安を抱えています。そのような中、ER で自信をもって初期対応に臨めるよう、初期研修医や医学部高学年を対象とし、統一された方法を用いて救急患者の初期評価、それに引き続く疾患鑑別、治療を行っていく上でのいわば「お作法」を学ぶために研修医自らの手で開発されたトレーニングコース、それが SPAM です。シンプルながら救急診療の基本に沿ったアプローチで、患者さんの生命を脅かすような救急疾患にも見落としがなく、系統立って対応できるように設計されており、浦添総合病院 ER における初期研修医教育の基本となっています。

浦添総合病院では毎年、1 年目初期研修医を対象として、彼らが入職して実際に ER で働き始めた時期に、先輩である 2 年目初期研修医が中心となってこのシミュレーションコースを開催しています。また、最近では近隣の医学部高学年生を対象とした学生版 SPAM や、循環器や整形外科の疾患に特化したコースも行っています。

■ SPAM 誕生のきっかけ

～研修医たちのアイデアから生まれた SPAM ～

まだ駆け出しの初期研修医の多くは、ER での診療に不安を抱きながらも、早く第一線で働きたいと思っています。そして、そのような研修医を教育する研修病院も、実は医学生と大差のない駆け出し研

修医をいかに早く戦力化し、効果的な研修成果をあげるかに日々苦心しています。

初期研修期間は泣いても笑っても2年間です。その中で、日常診療で高頻度に遭遇する疾患に対するアプローチを標準化し、それを用いて研修医が自ら学んで成長していく、そしてさらにそれを後輩研修医に継承していくことこそが、2年間という短期間で初期研修医を戦力にする最短の方法であると私たちは考えました。

では、誰がその標準化されたアプローチ法をまとめ、そのテキストを作成するのがよいのでしょうか？ 世に出回っている指南本の多くが、作成者の意図に反してあまり使われないことが多い傾向があります。「知りたいことが書かれていない」とか「読みづらい」とかいった理由もありますが、「専門医が作った、現場の実情にそぐわないものが多いから」ということも要因でしょう。「専門医が作った指南本が使えないのならば、研修医自らが作ればいい。」それが、私たちがたどり着いた結論でした。自らが使いやすいように、研修医ならでの目線で考え、取り組み、さらにその作成に関わる一連の作業を通じて上級医や専門医と合意し、共通認識を形成する。これこそ、初期研修医にとって最高の学びの機会になると私たちは考えました。

指導医には1年目の研修医の抱く質問が当たり前すぎて理解できないことがあります。しかし2年目の先輩研修医なら、その質問の意図、さらにはその奥に隠れる不安なども的確に理解することができます。これこそ屋根瓦式教育の本質でしょう。だからこそ、研修医が自らの手で作るこのテキストに意義があり、改訂を重ねるにつれて脈々とその病院の歴代の研修医たちの魂が吹き込まれていくのです。そのような議論や改訂を研修医たち自らが繰り返した結果誕生し、受け継がれ、成長してきたものが、研修医の、研修医による、研修医のための救急初療標準化コース、SPAMです。

■ SPAM の実際

SPAMはACLSやJATECなどの講習会同様、簡単な講義と実践的なシミュレーションを交えた形式で行われます。SPAMは大きく分けて、患者さんとの接触と同時に行うA (Airway: 気道)、B (Breathing: 呼吸)、C (Circulation: 循環)、D (Disability: 意識障害) の評価と応急指示を行う

“Primary Approach”，そしてそれに引き続いて疾患の鑑別や治療を行う“Secondary Approach”の二本柱で構成されます。

実際の SPAM トレーニングコースには、救急の基本である ABCD（気道，呼吸，循環，意識）の異常をきたす緊急疾患へのアプローチを中心としたシミュレーションを行う Basic SPAM コースと、「頭痛」「腹痛」「胸痛」などといった ER でよく遭遇する症状別にアプローチしていく方法を学ぶ Advanced SPAM コースがあります。それぞれの異常に対してのアプローチ方法は、インストラクターとなる 2 年目研修医や歴代の先輩研修医たちが教科書や文献，経験から得た知識を基に考案した，SPAM オリジナルのアプローチ方法を用いていることも特徴です。いずれも，その最初のステップは後述する Primary Approach と Secondary Approach が基本となり，研修医はコースを通じて「SPAM のポーズ」や「First Impression」といった SPAM を構成する大切なコンセプトを叩き込まれます。

コース当日は，まず全体で Primary Approach の概要を学んだ後，少人数グループに分かれて ABCD それぞれの異常を想定した症例や主訴別のシナリオが用意されたブースで実践的なシミュレーションを行い，頭と体の両方を動かしながら救急初期対応を学んでいきます。各ブースでできるだけ本物の ER に近い雰囲気を作り，そこにインストラクターによる名演技が加わり，さらに臨場感を盛り上げます。患者，看護師役の演技がリアル過ぎて，パニックに陥ってしまう受講者もいるほどです。

このコースは，2 年目研修医が中心となって準備を進めます。これは，SPAM が研修医にとってただ「教わる」ものではなく，“Standard”と呼ぶにふさわしい診療を行えているか自分たちで考え，その方法をまとめ，さらにそれを後輩へ伝えるという「教える」場にもなっていることを意味します。コース運営を通じて研修医仲間の結束を深め，自ら勉強することで着実に成長できることも SPAM の魅力の一つです。

SPAM は今もなお発展途上にあります。しかしながら，沖縄の小さな病院の研修医たちから始まったこの取り組みが，全国の救急初期対応に戸惑う研修医の先生方の道標になり，いつの日か沖縄の海を越えて全国へ広がり，多くの研修医を，さらには多く

の患者さんを救う日がくることを夢見ながら、私たちはこの活動に取り組んでいます。

我々がこうやって取り組んできた SPAM の内容を、立場を同じくする多くの人と共有することが本書の狙いです。このガイドブックでは、SPAM の基本コンセプトを紹介するとともに、ABCD アプローチで学ぶ緊急疾患や ER で遭遇する頻度の高い疾患を選び、各論としてまとめました。これを参考に、ぜひ ER で SPAM を実践するとともに、日々の診療に活用していただけると幸いです。

2 ▶ SPAM の二本柱

～ Primary Approach と Secondary Approach ～

著 山内素直

SPAM は Primary Approach と Secondary Approach という二本柱から成り立ち、初療においてそれぞれ違った意味合いを持っています。

■ Primary Approach

Primary Approach は「蘇生目的評価」と位置づけられており、患者さんに接触して最初に行う評価で、「危険な第一印象 (= First Impression)」と「危険なバイタルサイン」から患者さんの異常を素早く察知し、その異常が ABCD (気道・呼吸・循環・意識) のどれにあり、どう対処するかを判断する救急初療の肝の部分です。このとき、患者さんの異常を確実に察知できるよう、SPAM では First Impression をとるためのお決まりのポーズ、その名も「SPAM のポーズ」があります。詳細は後述しますが、この姿勢は、たったこれ一つで即座に ABCD の異常を評価することができる最強のポーズですので、コース中も、実際の臨床現場でも、患者さんと接触した際は必ずこのポーズをとるように意識するようにしましょう。

First Impression で異常があれば、それを周りに大きな声で宣言し、「誰か～!! IV, O₂, モニター!!」と叫んで、研修医にとって何よりも大切な応援を呼ぶとともに、初療に不可欠なライン確保と酸素投与、バイタルサインのチェックの指示を出します。First Impression とバイタルサインから、ABCD のどこに異常があるか、対応を急ぐべきか、もしくは少し時間をかけても大丈夫かなどの判断をします。

Primary Approach の時点では、患者さんの病態・疾患の診断ができていない必要は全くありません。患者さんに何が起きているのか正確にわからなくても、まずは患者さんの生命を脅かすような異常があるかどうかを確認し、異常を認めた場合は速やかに次の対応を考えることが重要です。その判断ができた段階で次の Secondary Approach へと進みます。

■ Secondary Approach

Secondary Approach は「診断・治療目的評価」と位置付けられ、Primary Approach で察知した